

東北 VALUE SIGHT 宮城



株式会社ガリウム 代表取締役
結城 谷行 (ゆうき・たにゆき)

1983年日本大学卒業後、クロスカントリースキー選手として世界を転戦。1988年カナダで開催されたカルガリーオリンピックには、日本クロスカントリースキー代表として出場。選手時代に会ったガリウム配合ワックスが縁で、1989年当時ガリウムワックスを製造していた同和鉱業株式会社(現 DOWAホールディングス株式会社)に入社し、1995年ドウワガリウムワックス販売株式会社代表取締役に就任。2010年DOWAよりMBOにより、独立し株式会社ガリウムに社名を変更する。

株式会社ガリウム
宮城県仙台市青葉区花京院1丁目1番5
<http://www.galliumwax.co.jp/>

1911年、オーストリア陸軍レルヒ少佐が日本にスキーを伝えてから100年以上が経過する。しかし、スキー用具は現在も海外製のものが主流であり、国産品は多くない。株式会社ガリウムは、日本人選手が国産品でオリンピックのセンターポールに日の丸を掲げてくれることを目標に、「究極のワックス」を目指し日々研究を進めている。

東北から世界への挑戦 ~MADE IN JAPANのスキーワックスで日の丸を掲げたい~

「用具の差」を実感した選手時代

子供の頃からクロスカントリースキー競技に打ち込み、1987年ドイツ・オーベルストドルフで行われたノルディックスキー世界選手権クロスカントリー50km競技18位や、1988年のカルガリーオリンピックにクロスカントリースキー日本代表として出場し、その結果50km競技39位だった。

当時はスキーの準備をしてくれるサービスマンが帯同することもなく、ワックスも競技当日の雪質に最適と思われる物を自分の感覚で選択し、自分でスキーに塗って戦っていた。

しかし、海外の選手は、有名メーカーが提供するスキーに、自国のサービスマンが、現地の雪でテストを行った上で選択した、最新のワックスを塗って滑っている。スキー競技は用具やワックスの差が競技成績に対して顕著に表れるスポーツであるため、その差を痛切に感じた。

ワックスで世界と戦う

現役時代、ガリウム配合ワックスに出会い、「極めれば世界で勝てるかも」とその可能性を実感していた。選手引退後の1995年ドウワガリウムワックス販売株式会社の社長に就任し、「ワックスで選手を勝たせる」という世界との戦いがスタートした。

1998年長野オリンピックから、全日本ナショナルチームへのワックス供給が始まり、昨年(2014年)2月に行われたソチオリンピックでも、日本のスキー、スノーボードチームに対してMADE IN JAPANのワックスを供給し、ワックスでの戦いを続けている。

世界初液体フッ素ワックス『Maxfluor』の誕生

現役時代、自分でワックスを塗っていた経験から、「高性能でも簡単に塗れるワックス」が必要ということで、レースの際に使用されるフッ素ワックスの液体化を手がけた。通常のフッ素ワックスは、アイロ

ンを用いてスキーの滑走面に塗るのであるが、その際150℃前後の高温が必要となり、スキーの滑走面素材であるポリエチレンを変質させることなく塗るには、高度な技術が必要であった。

そこで、誰でも短時間で簡単に塗れる高性能ワックスを開発するための研究が続いた。2001年数種類のテスト品が完成し、アルペンスキーレーサーにテストしてもらった際、スキーを履いた直後にテスターが転倒してしまうほどの違いがあり、2002/2003シーズン日本国内において、『ドクター FCG Maxfluor』という商品名でのテスト販売を開始した。

当時は輸出を行っていなかったため、このドクター FCG Maxfluorは、日本代表としてオリンピック、世界選手権、ワールドカップ等の国際大会に参戦する日本人レーサーにとって大きな武器となり、海外のチーム、レーサーに知られないようにするため、現地で使い終わった空のボトルも現地では廃棄せず、日本に持ち帰るほど信頼を得るワックスとなった。

海外展開のきっかけ

『ドクター FCG Maxfluor』の販売開始から6シーズン後の2009年2月、チェコのリベツにおいて、ノルディックスキー世界選手権大会が開催された。この大会では、どのチームにもスキーの滑走性に問題が発生したのであるが、日本ノルディックコンバインドチームはリレー複合団体競技において、1994年リレハンメル・オリンピック以来15年振りに金メダルを獲得した。また、日本女子クロスカントリーチームも、スプリントリレー競技において、クロスカントリースキーの最強豪国ノルウェーチームを破って4位に入賞するという快挙を達成してくれた。

この成績を見たノルウェーナショナルチームが、「日本チームには何かある」と予想し、調査を行い当

社『ドクター FCG Maxfluor』がノルウェーチームに知られることとなった。

2009年春、ノルウェーの現当社代理店より連絡があり、2009/2010年シーズンより輸出を開始することとなった。同時に、ノルウェーナショナルチームとは、当社ワックスのテスト使用に関する契約を締結し、ノルウェークロスカントリーナショナルチームのサービスチーフから、「Maxfluorは現在ある製品の中で、ワックス革命に近い製品である」とのコメントが現地の新聞に掲載されるほど話題となった。

これをきっかけに、2011年からはアメリカへ、2013年にはロシアへの輸出を行うこととなった。

さらなる進化

スキーワックスの進化は日進月歩である。新素材、新しい製造技術・加工技術等の開発により、次々に新製品が生み出されてくる。今に満足していたらすぐに追い越されてしまうという製品である。

当社では、2013年に世界初となる、イオン化したメタルを配合したワックスの開発に成功した。「イオン化したメタルを配合したワックス」とは、まず、ガリウム・金・銀・亜鉛・タンゲステン・モリブデンなどのメタルを溶液中に溶解し、メタルが電離し陽イオンとなった溶液を作製する。次にこの「メタルイオン」を含んだ溶液をパラフィンに所定量加え乾燥させ、「イオン化メタル配合パラフィン」を作製する。さらに、雪質に合うパラフィンに、前述の「イオン化メタル配合パラフィン」を配合する事により、「ION WAX」となる。

本年度より一部小売店において、『METALLIC ION_BLOCK』という商品名でテスト販売を行う計画である。この『METALLIC ION_BLOCK』を使用すると、ワックスに配合されたメタルが滑走面上にむらなく均一に分布する事から、従来のワックス

よりも雪面との摩擦が軽減され、低摩擦性を示すようになる。そのため、従来品と比較して滑走性が飛躍的に向上するという結果が得られている。また、ワックスの持続性、初速などの項目においても、従来のワックスを上回る結果となっており、実戦においてもレーサーから評価が得られるものと確信している。

ガリウムの夢

ワックスの開発に終わりはない。今後も日本人レーサーが、日本製のガリウムワックスを使って、オリンピックの表彰式でセンターポールに日の丸を掲げてくれる事を目標に、さらなる高性能ワックスの開発にまい進したい。

また、一般スキー、スノーボード愛好家には、ワックスを使用していただく事でその楽しさと安全性が倍増する事を伝え、ウィンタースポーツの普及を図り、健康で元気な社会づくりに貢献したいと考えている。



世界で初めて開発された液体フッ素ワックス「ドクター FCG Maxfluor」の性能をさらに進化させた「GIGA SPEED Maxfluor」
世界が認めた日本のワックス